

ふくい2030年の姿

— 25年後のふくい 夢と希望の未来像 —

2005（平成17）年3月

「ふくい2030年の姿」検討会

はじめに

本検討会は、昨年4月に、福井県を将来こういう姿にしたいという、政策を検討するうえで「道しるべ」となるような未来像を検討するようにと西川知事から指示を受け、我々16名の職員が勉強会をスタートさせました。

これまで県では、10年、15年といった計画期間を設けて具体的な施策や事業を盛り込んだ従来型の長期ビジョンを作ってきました。しかし、社会経済情勢が著しく変化している新しい時代においては、計画の策定そのものが困難であり、かつ、早い段階で実際とのズレが生じてしまうという問題が生じるため、新たな長期ビジョンの策定は行っていません。

現在、県政推進の基本としている「福井元気宣言」は、4年間で達成すべき目標を示した短期的なものです。検討を開始するに当たって、元気宣言を補い、新たな施策の具体化に向けた検討のベースにできるような、夢と希望を折り込んだ実現可能な未来像を描こうと考えました。

今回検討した25年間すなわち四半世紀という時間は、一つの世代が時代的な役割を果たし、ほぼ完全に次の世代に引き継ぐ歳月に当たります。25年後は、私たちの世代は第一線からの引退が近づき、私たちの子どもがまさに活躍している時代になります。

また、その間に社会的、政治的、国際的に大きな変動があり得る期間とも言えます。例えば、25年前はインターネットどころかパソコン通信も始まっていませんでしたし、ブラザ合意前の当時、円/ドルレートは230円前後でした。

こうした、25年前と現在の間の様々な社会経済情勢を整理・分析するとともに、各界各層の方々と討議を重ね、県の各部局長からもご意見をいただきながら、今後の社会変化の兆しを少しでも読み取り、25年後の検討材料としました。

ここに示した未来像は、我々職員が自ら作ったまだまだ荒削りなものであり、見方によっては、また税制や社会保障などの制度のいかんによっては、大きく変わっていくものです。このため、一度作って終わりではなく、常に見直し練り上げていく必要があると考えています。また、社会経済情勢の変化を踏まえ、メンバーの入れ替えを行いながら5年程度ごとに順々に見直していく方がよいと考えます。

この手作りの報告書が、当初目指した内容になっているものとは思っていませんが、より多くの方が福井県の未来について関心を持ち、目指すべき未来像について考え、その実現にそれぞれの立場で行動していただく契機となれば幸いです。

2005（平成17）年3月

「ふくい2030年の姿」検討会

目 次

第1部 基本的視点	1
○第1章 時代の潮流	
1-1 人口減少・長寿社会 ー知識・技術を活かす新しい社会の実現ー	1
1-2 経済構造の変化 ー新しい質と尺度の経済社会へー	10
1-3 グローバル社会 ー大交流の時代に向けてー	13
1-4 情報社会 ーバーチャルによるリアリティの実現ー	18
○第2章 人と暮らし	
2-1 価値観・ライフスタイル	21
2-2 家族のかたち	26
2-3 住 宅	29
2-4 地域社会と公共	32
2-5 教育（人づくり）	37
2-6 文化・伝統	40
○第3章 仕事と社会	
3-1 産業・雇用	43
3-2 車社会	51
3-3 中心市街地	55
3-4 農村・自然環境	58
3-5 人口の移動	61
3-6 環境・エネルギー問題	64
3-7 安全・安心	68
○第4章 生活と行政	
4-1 地方の自立	72
4-2 生活圏・経済圏	76

第2部 ふくい2030年の姿	79
○第1章 生活優先、自立社会	82
○第2章 知活福井	85
2-1 活動スタイルの自由設計	86
2-2 福井本拠・世界市場の産業	89
2-3 地域社会を支える新ビジネス	91
○第3章 四通八達福井	93
3-1 アクセス 福井	94
3-2 都市と農村の共生・交流	99
3-3 高質な自然を守り活かす福井	104
○第4章 福縁福井	107
4-1 つながる・広がる「福縁社会」	108
4-2 福縁を通じて高める安全・安心	111
○第5章 夢福井人	113
5-1 一生自学の時代	114
5-2 子育てシステム・ナンバーワン	117
5-3 健康長寿 世界一	118
5-4 福井人の文化と誇り	120
【コラム集 ー2030年の福井人の姿ー】	123

—— 参 考 資 料 ——

○「ふくい2030年の姿」に関するアンケート調査結果	……………	1
○「ふくい2030年の姿」検討会 検討経過等	……………	17
○「ふくい2030年の姿」検討会 名簿	……………	18
○参考文献一覧	……………	19

—— 作 成 後 記 ——